

YouTube「テレ東BIZ」 独自の視点の「解説動画」で 視聴回数800万回を達成!

報道局
ニュースセンター
豊島晋作さん



解説に時間をかけた YouTube動画の制作を開始

——豊島さんは現在、「WBS（ワールドビジネスサテライト）」のメインキャスターとして月曜日～木曜日に出演されていて、さらにYouTubeにも動画を数多くアップしています。

豊島■以前は地上波が6割、YouTubeなどの動画が4割程度だったのですが、今は昼間の取材が多くなり、動画にかける時間が少し短くなっています。しかし、動画のほうも月に最低2本は制作したいと思っています。

——担当しているYouTubeの「解説動画」はいつ頃から、どんなきっかけで始めたのでしょうか。

豊島■2019年10月の「エリザベス女王の苦悩」という動画からになります。以前、ロンドン支局兼モスクワ支局長としてロンドンに駐在していて、イギリス政治を少し取材した経験もあり、この動画を始めました。

「WBS」のようなニュース番組では、コメントの時間はだいたい1分30秒くらいです。やはりそれだけだと、今の視聴者の方々は納得できず、もっと知りたいと思うので、そういうニーズに応えるために、解説に時間をかけたYouTube動画を制作することになりました。

——ロシアがウクライナに侵攻して、2月で3年になります。このウクライナ侵攻に関する動画では、独自の視点で解説されています。

豊島■ロシアが軍事的な圧力を加えていると、やはりロシアは悪者なんじゃないかという理解が働くわけですが、一方で30秒とか2～3分のテレビの枠だと、ロシア側の視点も含

めた全体像を語るできません。もっと時間があれば彼らの背景にあるメンタリティのところまで解説できると思いました。ロシアの視点に立ったそのような解説があまりなかったということもあり、800万回以上視聴していただく結果になったと思います。

——解説動画では参考文献をきちんと紹介しています。

豊島■情報のトレーサビリティ（追跡可能性）というのが求められている時代で、やはり情報元を明示するのは重要なことです。

情報の信頼性、正確性という点はとても大切にしています。ですから、紹介した情報に誤りが見つかったときは、その動画を削除するのではなく「お詫び動画」を制作し、訂正を行っています。ある程度ガラス張りにしていかないと、今の視聴者はついてきてくれないというか、テレビの情報は作られたものだという理解になってしまうと思います。

地上波でやりきれないことを きちんと伝えていきたい

——動画のテーマはどのように選んでいるのでしょうか。

豊島■ほとんど私の主観で選んでいるのですが、やはり国際紛争のネタが多いですね。同時に、関連する書籍も重要だと常に考えているので、参考文献として取り上げることが多いです。例えば海外取材の際、事前にその国の情勢に関する書籍を読んでいくと、読み込んだ知識と現場での体感が掛け算になるのです。通常、読書の知識が3、現場で得た知識が3だとすると合計6なのですが、それ

が9に膨らむ感じですよ。

——今後、動画で挑戦したいことは？

豊島■アメリカのジャーナリスト、ジョニー・ハリスさんのYouTubeはチャンネル登録者が500万人くらいいるのですが、その動画の作り方がすごく勉強になります。見た瞬間に地図が出てきて、この国がこの国を圧迫しているとか侵略しているとか、視覚的にすぐわかる。映像が理解を助ける作りになっています。

テレビ界にはデジタルでは適当に作っておけばいいという風潮がまだ少しあるので、それをやっぱり変えないといけないと思います。視聴者に本気で見てもらうのだったら、こちらで時間やコストをかけるべきです。そして、今後も動画では、地上波でやりきれなかったことをきちんと伝えていきたいと思っています。

オススメコンテンツ



「ロシアの論理」で読み解くウクライナ危機【豊島晋作のテレ東ワールドポリティクス】

強力な軍力で隣国を攻撃するロシア。なぜロシアはここまで強硬なのか。あえて「ロシアの論理」や「言い分」に立ち、ウクライナ危機を読み解く。（2022年2月9日配信、2025年1月現在視聴回数836万回）



from
YouTube

ライタージャーナリズム研究所「Digital News Report 2024」では、ニュースの視聴者は「多様な視点」に基づく報道を求めており、報道機関への信頼の醸成に「透明性」が最も重要との結果が出ていました。豊島さんの解説動画はそういったニーズに合致するのではないのでしょうか。